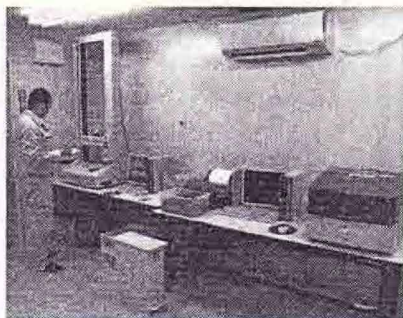


産業ミフヒ

再生プラに「品質保証」

物性など明示、信頼性向上

【神戸】ヒフミ産業
(兵庫県たつの市、竹内
守社長、079-322・



3534)は、廃プラスチックをペレットに再生するプラスチックリサイクル事業で、販売時にペレットごとの物性や安全性を明記した検査成績表を添付する取り組みを始めた。ペレットの強度や欧州特定有害物質規制

社内へ導入した検査機器

(R・HS)対応など、顧客ニーズに合致した再生ペレットであることを保証し信頼を得る狙い。

同社は今年に入って蛍光X線分析装置、衝撃試験機、引っ張り/曲げ試験機、JIS規格対応試験片作成用射出成形機などの各種試験設備を導入。品質検査を独自に行える体制を整備した。これにより、ペレットの強度や流動性(MFR)数

値、R・HSや欧州廃自動車指令(ELV)に基づく有害物質の有無を調べ、ロットごとに検査成績表を付けて顧客に出荷するサービスを始めた。

またすべての製品にロット番号を付けて管理し、出荷後に顧客から問い合わせがあれば、その製品をいつ、どのような状況で製造したかを追跡できる仕組みも整えた。同社は樹脂製品の製造

段階で発生したポリプロピレン、ポリエチレンなど塩ビ系を除く樹脂廃材や、家電リサイクル・自動車リサイクル経由で排出される廃プラスチックといった、成分が明確な廃プラのみを原料に調達。それを粉砕、洗浄、選別して樹脂ペレットに再生し、大手樹脂メーカーに販売している。

再生ペレット相場は景気低迷で一時より下落傾向。同社は添加剤を調合してユーザーが求める品質まで物性を向上させる独自のノウハウや、今回の検査成績表による品質保証対策により価格下落に対抗する。